

|          |                   |                |
|----------|-------------------|----------------|
|          | 学校名: 聖徳学園中学校・高等学校 |                |
|          | 氏名: 山田英人          | ● 実践教科等: 英語    |
|          |                   | ● 時間数 : 4時間    |
| THAILAND | [担当教科: 英語]        | ● 対象生徒 : 中学1年生 |
|          |                   | ● 対象人数 : 18人   |

1 単元名 国際理解を通じて、自他肯定感を高め、グローバルに協働する可能性を模索する。

## 2 単元の目標

- ・主体的・能動的・対話的に自らの国際協力・貢献について考える力の育成。(進んで参加する態度)
- ・日本人としてのアイデンティティーを軸に、自国のことをもっと誇れるようになり、自己肯定観を高める。  
(つながりを尊重する態度)
- ・多様な価値観やバックグラウンドを持った人々のことを知り、他者を敬い慮る環境の醸成  
(他者と協力する態度)

## 3 単元の指導について

### (1) 教材観

・現行の学習指導要領の外国語における目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」と記されている。これは国際理解教育と通ずるところが大いにある。グローバル社会という文脈の中での異文化への理解を促進することは極めて肝要である。

・世界はますます多様化が進んでおり、自身の力で考え、決断していくことがより大切になっている。オックスフォード英語辞書が2016年世界の言葉として選んだ「post-truth(ポスト真実)」が象徴しているように、SNSなどの様々なメディアが台頭し、権威的なものに揺らぎが生じている。そのため、様々な考えに満ち溢れ、ますます情報の取捨選択が難しくなっていく。この単元では多様な世界で、核となる自分自身を見つめなおし、自己肯定観を身につけていく。

### (2) 生徒観

本校は聖徳太子の「和」の精神を教えに、「個性(Individuality)」「国際性(Globalism)」「創造性(Creativity)」を教育の方針としている。この教育理念の三本の柱のうち、国際性(国際的な視野)を養う活動として今回の授業実践を位置付ける。

英語の授業では、発展クラスと標準クラスといった2つの習熟度に分けて展開している。今回の授業は標準クラスでの実践である。中学1年生ということで、中学校での英語学習が始まり、半年ほど経つ時期、小学生までとは異なる環境で、英語の書き取りに苦手意識を持つ生徒は少なくない。しかし、show and tell や iPad を用いた発表活動に対して物怖じしない生徒が多い。

### (3) 指導観

担当のクラスの中には、タイのバンコク日本人学校に通学していた生徒も交じっている。その生徒の現地でのことなどを引き出し、その話を交えながら授業を進める。指導形態としては、グループ活動を多くして、学校として全面的に取り組んでいるアクティブラーニングのスタイルで対話的な授業を心がける。

#### 4 評価基準

| 観点   | 国際理解への<br>関心・意欲・態度  | 多面的な<br>思考・判断・表現  | 自己表現・発表活<br>動を行うための技<br>能・表現  | 発表活動に関する<br>知識・理解  |
|------|---|---|-------------------------------|--|
| 評価規準 | JICA の取り組みや<br>タイと日本の関係を<br>踏まえて、積極的<br>に新しい情報を手<br>に入れようとする。 | 一つの考えだけに<br>とられず、グルー<br>プの意見や他者の<br>考えも取り入れるこ<br>とができる。 | 聴き手を意識し、誠<br>意を持って発言が<br>できる。 | 授業の中で取り上<br>げられたことに留ま<br>らず、自ら調べ学<br>習などを通して、理<br>解の幅を広げること<br>ができる。 |
| 評価方法 | グループ学習<br>話し合いの様子<br>ワークシート<br>発表<br>振り返りシート                  | グループ学習<br>話し合いの様子<br>ワークシート<br>発表<br>振り返りシート            | グループ学習<br>話し合いの様子<br>ワークシート   | ワークシート<br>発表<br>振り返りシート  |

#### 5 単元の構成

| 時限 | 小単元名                                | 学習のねらい  | 授業内容   |
|----|-------------------------------------|---|--|
| 1  | 世界の中の日本。<br>I am proud of<br>Japan! | 日本人というアイデンティ<br>ティーを通して、自己肯定感を<br>高める。日本人としての<br>pride を学ぶ。(つながりを<br>尊重する態度)                    | タイと日本の関係から、タイにおける日本の<br>プレゼンスを学ぶ。例えば、タイで有名な日<br>本のアニメや日本食などの日本文化は特に<br>有名である。また、JICA や日系企業がタイ<br>で果たしてきた役割を APCD やレムチャバン<br>港などから知る。 |
| 2  | タイについての理<br>解を促す、多様性<br>を受け入れる。     | タイの生活や文化を学び、<br>他者理解・他者肯定の態度<br>を養う。(異文化理解に対す<br>る能力)   | 違いを認める、Diversity 多様性への理解を<br>促す。共通点(common)なことを理解、受用<br>する。共通点、相違点を学ぶ。クロントーイ<br>スラムの現状やタイにおける障害者につい<br>ても考える。                        |
| 3  | 可能性の模索。<br>What can we do?          | オラタイさんや日本人がタイ<br>で果たしてきた役割を知り<br>様々な可能性やできること<br>を学ぶ。例などを通し、自ら<br>のできることを考え話し合<br>う。(他者と協力する態度) | What can we do?をグループで考える。例を<br>示す。例：国際的・交流イベントへの参加、<br>ネットで調べる、学校の勉強をする、語学、<br>話しかける、インタビューする等。<br>発表準備を行う。                          |
| 4  | 可能性の模索、<br>表現する。                    | 「自分・自分たちが人のため<br>に何ができるか？直接的でも<br>間接的でも可。」(多面的<br>、総合的に考え行動する<br>能力)                            | 3回の授業の総括として、要点のまとめを行<br>う。What can I do? What can we do?という<br>問いから多面的に考える。使い慣れた<br>iPad やロイロノートというアプリを利用が生<br>徒の発表を促すと考える。          |

#### 6 授業事例の紹介

小単元名【 世界の中の日本・タイ I am proud of Japan! 】

##### (1) 指導案

(ア)実施日時 11月1日(火)第4限

(イ)実施会場 中学1年3組教室

(ウ)本時の目標

- 海外で認知・評価されている日本の文化や技術を通して、日本人としてのアイデンティティの理解を深める。
- タイの文化や背景知識を通じて、日本とタイとの関係を考え、英語と日本語で多角的に物事を見ていく。

(エ) 指導のポイント

単元のテーマとして、「国際理解を通じて、自己肯定感を高め、グローバルに協働する可能性を模索する」に設定した。本時は、最初の時間にあたり、ここでは日本人としてのアイデンティティーを考え、自己肯定感を高める活動を展開する。日本人としてのアイデンティティーの確立は国際社会を考える上で、最も基礎に置くべきことである。理由は「幸せとは何か」といった質問に対して、日本人がこの質問に胸を張って、躊躇なく答えるためにも、今の日本や今の自分を肯定することが大切である、と考えるからである。第2時限以降、現在の日本の繁栄も世界の様々な国とのつながりによって成り立っていることを学習するが、日本の「今ここ(Here and Now)」にあるものを肯定することから始めたい。

また、グローバル社会で生きていく為にも英語を始めとした力を身につけることも肝要である。インターネット上の情報の50～80%が英語だと言われており、対して日本語は3～5%だと言われている。日本人として日本語の重要性も伝える一方で、世界共通語が英語であるという認識も高めていく。

日本を相対化・客体化して、タイという文脈の中で文化や背景知識を題材に、生徒の日本についての理解を深化させる。振り返りにて多様な考えを引き出し、電子黒板・iPadなどのICTを駆使し生徒間でも共有し、考え方の多様性を促す。

(オ) 本時の展開

| 過程・時間    | 指導内容                                | 学習活動   | 指導形態       | 指導上の留意点  | 評価                                  |
|----------|-------------------------------------|--|------------|--|-------------------------------------|
| 導入<br>5分 | 挨拶・出欠確認<br>今週のテーマ、<br>今日のテーマ<br>【1】 | 英語での出欠確認、<br>本時の目標及び学習内容について説明を聞く。                             | 一斉         | 本時の目標をしっかり傾聴させる。授業の見通しを持たせ、各授業の最後には理由とともに、本時の学びの振り返りができるようにする。 | 教室や机上のレディネスが整っている。                  |
| 5分       | タイのイメージを喚起<br>【2】                   | 「タイってどんな国?」「What do you think about Thailand?」をグループで話し合う。      | 一斉<br>グループ | 率直な意見を引き出すために、リラックスした雰囲気を心がける                                  | グループで協働・話し合いが出来ているかを評価<br>(参加態度)    |
| 5分       | タイクイズ<br>(プミポン国王に関する質問も含む)<br>【2】   | 10問のタイに関するクイズ<br>(地理、国旗、首都、言語、挨拶、食べ物、気温など)                     | 一斉<br>グループ | 二択問題を行い、ゲーム感覚で授業に引き込む。テンポを大切に。ここでは限定的な答えのある問題を提示する。            | 既習事項である疑問詞を用いた文の理解度、それに対するの答えを評価する。 |
| 展開<br>5分 | タイで有名な日本のものについての調べ学習【3】             | タイで有名な日本のものを調べる。<br>(食べ物、お菓子、アニメ、音楽、日本の観光地)                    | グループ       | 日本が誇る文化に焦点を当て、世界での日本の立ち位置を考えさせる。                               | 積極的に情報を獲得しようとしているか。<br>(参加態度)       |
| 5分       | タイで有名な日本のものについての発表<br>【3】           | 各グループで調べたことを発表する。  | グループ<br>一斉 | タイと日本とのつながりがあり、国際社会における日本のプレゼンスは強いという一つの結論を示す。                 | グループでまとめたことをクラスの全員に伝えられているか(内容態度)   |
| 10分      | 日本を文化や技術を誇りに思えるような題材を紹介する【4】        | 日本人としてのpride(プライド)を持つ。誇りを持つ。自信を持つ。長所を伸ばす。それが日本人にとっての幸福感を増進させる。 | 一斉         | タイで視察したAPCDやレムチャバン港の役割を通じて、タイと日本双方の発展に大きく貢献していることを学ぶ。          | 傾聴できているか。(参加態度)                     |

JICA 教師海外研修 授業実践報告書フォーマット

|           |                        |  |            |   |                               |
|-----------|------------------------|--|------------|---|-------------------------------|
| 5分        | 英語を勉強する意義を考える。<br>【1】  | 日本の文化や日本語を大切にする一方で、世界の共通言語としての英語の重要性を伝える。                                  | 一斉         | 英語学習についての意義にも触れ、映像を通して、英語の必要性を伝える。          | 積極的に情報を獲得しようとしているか。<br>(参加態度) |
| まとめ<br>5分 | 総括・振り返りと振り返りの共有<br>【6】 | まとめとして日本の世界に果たしている役割を認識し、自国を誇りに思い、英語で I'm proud of Japan.と 言えるようになるように伝える。 | グループ<br>一斉 | 日本を誇りに思うことと、英語で世界を理解していくことのダブルスタンダードを意識させる。 | 他の生徒と意見に耳を傾けようとする姿勢<br>(参加態度) |

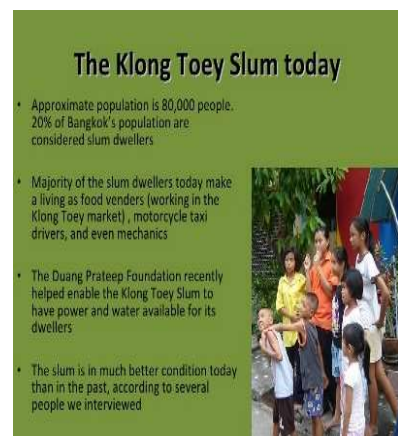
(2) 授業の振り返り

・英語の授業内での、タイについての授業の第一時限目ということもあり、普段の授業とは大きく異なったが、生徒は積極的に前向きな姿勢で取り組んでいたのが印象的であった。

・授業実践のテーマとして、「タイと日本の関係から私たちにもできることを考えよう！ What can we do?」を設定した。全4回の授業を通じ、自己理解、他者理解を深めながら、国際社会という枠組みで生徒たち自身ができることを模索できた。最後に行った生徒たちにもできることは何か、という発表の際、生徒なりにいろいろな側面から考え、話し合い、発表を行うことができた。反面、「Stationary 子供に勉強してもらおう」、「sketchbook お絵かきの楽しさを知ってもらおう」などのように「～してもらおう」という意識が拭えなかった。授業内では win-win の関係で両者にとって良くなることになるように伝えてはいたが、ハードルは高かったようである。

(3) 使用教材

プミポン国王の悲報の認知度は高い 熱っぽく語る Mr.Akiie Ninomiya スラムについてのスライド



日本とタイの友好を示す看板



(4) 参考資料等

- ・『グローバル時代の国際理解教育 ―実践と理論をつなぐ―』 日本国際理解教育学会編著、明石書店、2010年
- ・『生徒の生き方が変わる グローバル教育の実践』 石森広美著、メディア総合研究所、2015年
- ・『持続可能な開発のための教育(ESD)の理論と実践』 西井麻美・藤倉まなみ・大江ひろ子・西井寿里編著、ミネルヴァ書房、2012年
- ・『わたしと小鳥とすずと—金子みすゞ童謡集』 金子みすゞ著、JULA 出版局、1984年
- ・Ishimori, Hiromi, “Global Awareness of Japanese High School Students,” *International Journal of Learner Diversity* 1, no.1 (December 2009):45–58
- ・Web Technology Surveys “Usage of content language for websites”  
([https://w3techs.com/technologies/overview/content\\_language/all](https://w3techs.com/technologies/overview/content_language/all))

7 単元をとおした児童生徒の反応/変化

授業1(世界の中の日本 I'm proud of Japan!)

- ・ 国(言語)によって文化も違う。その国はその国でいいところがある。
- ・ タイでも日本の企業が友情を結んでいるのがすごいと思った。自分にできることは今後タイに行って協力したいです。(技術面で)
- ・ タイと日本が色々と協力し、助け合いながら過ごしていると思った。
- ・ 以下タイに興味を持ったという回答

もっとタイが知りたくなった。／タイに行ってみたくなった。／タイ料理が一番気になる。／日本のアニメがタイで流行っていることを知った。／いろんな国のことについても知りたくなった。／タイにも豚骨ラーメンがあつてうれしかった。／タイには王様がいることを学んだ。／改めて英語は大切なんだと思った。／

授業2(タイについての理解を促す、多様性を受け入れる)

- ・それぞれ diversity があるからいい。みんなの個性を大切にしなければならない。
- ・自分の考えだけじゃダメだということがわかった。見方を大きく変えて全体を見られるようにしていきたい。
- ・どうしても自分の「ものさし」ではかかってしまいます。いいところとわるいところが無い人もいないと思います。
- ・障害を持って産まれてきても諦めないことが大切だと思った。
- ・障害者や手・足が不自由な人でもこれからの世界に貢献するかもしれないことが分かった。
- ・世界には生まれつき体の不自由がある人もいますので、そういう人でも安心して暮らせる世界にしたい。また、スラムに住んでいる人も都会に住んでいる人も同じ立場にいることを大切にしたい。
- ・障害を持っている人も、受け入れないといけないということが分かった。色々な人を大切にしないといけないことがわかった。

授業3・4(可能性を模索する)

- ・衛生面の問題についての関心が増した。飲み水の問題を解決すると、女性の社会進出が進み、子供の就学率が向上する。そのためには下水の問題の解決が重要。
- ・食べ物を大切にする。
- ・モノを支援するだけでは、問題は解決しない。段階的な支援のステップが大切。チャイルド・スポンサーシップの活動も大事。
- ・ユニセフなどの募金活動で、目など不自由な人や支援のない子供や貧困な人に募金。ゴミ拾いなどのボランティアをする。
- ・本やノートやペンなどの文具を送って使ってもらう、小さくなった服などを送り着てもらう。

## 8 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

### 【成果】

普段の授業から、いかに授業が内向きで国内的な視点であったかということに気が付けた。

### 【課題及び改善策】

- ・平常の英語の授業内で国際理解の視点を散りばめ、内容を発展させていくアプローチをとっていくこと。
- ・グローバル 이슈、特に環境問題などは内容が、中学生にはもちろん、高校生にとっても難しくなるため、日本語使用と英語使用とのバランス、いかに生徒に英語を使わせるか。

## 9 教師海外研修に参加して

これからも教員として常に意識しなければいけないことは、井の中の蛙のままではいけないということである。この度教師海外研修への参加する機会を頂き、国際理解教育に足を踏み入れることができた。同時に、同じくこの研修に参加したメンバーの中には、遥かに進んだ取り組みをしている。事前研修や事後研修などを含め、如実に現れる能力の差に、自身の小ささを感じてならない。そのような不甲斐なさを感じつつも、今後はもちろん「切磋琢磨」し、情報交換などを行いながら、生徒の生き方が変わるようなグローバル教育に挑戦していきたいと考える。

宮城県公立高校教諭の石森広美先生が全国の高校生を対象に行った調査によれば、総じて、欧米志向、特にポップカルチャーへの強い興味とは対照的なグローバル 이슈への関心の希薄さなど、バランスを欠く国際認識の現状が明らかになり、知識の不足や偏りをなくすことと同時に、偏見のない広い視野と互いを分かり合おうとする心や平等感を育てていく必要がある。非英語圏の文化、環境や平和、国際協力に関する話題などに対する理解も「グローバル」の視点では見過ごすことは決してできない。

日本とタイの関係は深い。バンコクには、世界で2番目に大きな規模の日本人学校(小中一貫。生徒数 2500 人以上)がある。JETRO バンコクの調査によれば、2014 年の時点でタイに進出している企業数は 4567 社。親日的なタイ人の中には日本に留学する人も多く、バンコクやプーケットへの日本人観光客も多い。しかし、EF(English First)の調査によると、世界の英語能力ランキングで日本は、72 か国中 35 位、タイは 56 位となっている。双方に課題はあるが、世界共通語としての英語学習の意義も考えていきたい。